
[成果情報名] 水稲品種「実りつくし」の高品質・多収のための移植時期、施肥法および栽植密度

[要約] 水稲品種「実りつくし」の高品質、多収のための移植時期は6月20日頃、栽植密度は60株/坪である。高収量が得られる施肥法は、一般平坦地では基肥5Nkg/10aと穂肥2回(2+1.5Nkg/10a)、平坦肥沃地では基肥3Nkgと穂肥2回(2+1.5Nkg/10a)施用である。

[キーワード] 水稲、実りつくし、施肥法、移植時期、栽植密度

[担当部署] 筑後分場；水田高度利用チーム、農産部；大豆・品質チーム

[連絡先] 0944-32-1029

[対象項目] 水稲

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

水稲新品種「実りつくし」は、「ヒノヒカリ」に比べて多収で、外観品質および食味が安定して優れることから、中食・外食向けとして期待されている。今後、「実りつくし」の作付を推進するためには、本品種の特性に対応した栽培技術の確立が重要である。

そこで、「実りつくし」の高品質・多収のための最適な移植時期、施肥法および栽植密度を明らかにする。

(要望機関名：水田農業振興課 (H26、H27))

[成果の内容・特徴]

1. 収量が優れる移植時期は、6月20日頃である。6月30日移植では、千粒重が軽く、登熟歩合、収量が劣る。検査等級はいずれも1等で、食味も移植時期による差がない(表1)。
2. 高収量が得られる施肥法は、一般平坦地では基肥5Nkg/10aと穂肥2回(2+1.5Nkg/10a)、平坦肥沃地では基肥3Nkg/10aと穂肥2回(2+1.5Nkg/10a)施用である。一回全量施肥の場合、速効性窒素と緩効性窒素(LPSS100とLPS120を7:3で配合)を用い、一般平坦地では8.5Nkg/10a(速効性窒素:緩効性窒素 5:5)、平坦肥沃地では6.5Nkg/10a(同4:6)を施用すると高収量が得られる(図1)。
3. 高収量で品質が最も優れる栽植密度は60株/坪(18.2株/m²)である。40株/坪の極端な疎植はm²当たり粒数の過多によって、千粒重、登熟歩合および整粒歩合の低下が生じ、品質が劣る(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「実りつくし」の栽培技術マニュアルに掲載し、普及現場で利活用する。
2. 本成果のデータは前年夏作が水稲栽培の圃場における結果である。大豆跡作圃場では倒伏が発生するため基肥を削減する。
3. 6月20日移植の「実りつくし」と6月30日移植の「ヒノヒカリ」の成熟期はほぼ同時期となる。このため、両品種を作付する地域では収穫時期の競合を避けるために「ヒノヒカリ」の移植を6月30日より前にする必要がある。

[具体的データ]

表 1 移植時期と生育、収量および品質 (平成 27~29 年 筑後分場)

移植時期 (月. 日)	出穂期 (月. 日)	成熟期 (月. 日)	有効穂数 (本/m ²)	m ² 当たり 粒数 (×100粒)	登熟割合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)	収量比 (%)	検査等級	整粒歩合 (%)	玄米 タンパク (%)	食味 総合
6. 17-19	8. 30	10. 15	314	296	86	24. 5	636	100	2. 8	76. 5	6. 3	+0. 21
6. 30	9. 5	10. 20	306	291	81	24. 1	562	88	2. 8	74. 3	6. 0	+0. 22

- 注) 1. 施肥法 (基肥+穂肥①+穂肥②) は 3+2+1.5 (Nkg/10 a)。
 2. 検査等級は 1 (1 等上) ~ 9 (3 等下)。
 3. 整粒歩合は穀粒判別機 (サタケ RGQI20A) による測定値。
 4. 6 月 30 日移植ヒノヒカリの出穂期、成熟期はそれぞれ 8 月 31 日、10 月 15 日。
 5. 食味総合は農産部産コシヒカリを基準 (0.00) とした総合評価。

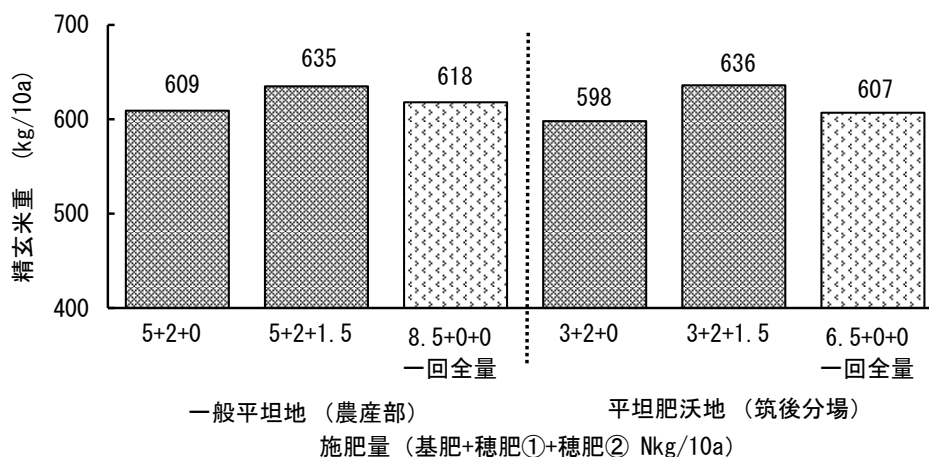


図 1 施肥法と収量

- 注) 1. 移植は平成 27~29 年 6 月 17~21 日、出穂期は 8 月 28~9 月 5 日、成熟期は 10 月 9~23 日。
 2. 一回全量は速効性窒素：緩効性窒素 (LPSS100 と LPS120 を 7 : 3) を農産部 5 : 5、筑後分場 4 : 6 で配合。
 3. 試験圃場の作土の可給態窒素量：農産部 (肥沃度中) 8.4mg/100g、筑後分場 (肥沃度高) 15.6mg/100g。
 4. 同一試験圃場で比較したヒノヒカリの精玄米重は農産部では 544kg/10 a (施肥法 5+2+0 Nkg/10 a)、筑後分場では 523kg/10 a (3+2+0 Nkg/10 a)。

表 2 栽植密度と生育、収量および品質 (平成 28~29 年 筑後分場)

栽植密度 (株)		m ² 当たり 粒数 (×100粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)	収量比 (%)	検査等級	整粒歩合 (%)
坪 当たり	m ² 当たり							
40	12. 1	339	81	23. 6	630	99	3. 5	73. 0
50	15. 2	310	85	24. 4	623	98	3. 5	76. 5
60	18. 2	297	86	24. 4	634	100	3. 0	76. 8
70	21. 2	319	84	24. 3	636	100	3. 3	76. 4

- 注) 1. 移植時期は 6 月 17~19 日。施肥法 (基肥+穂肥①+穂肥②) は 3+2+1.5 (Nkg/10 a)。
 2. 収量比は 60 株/m² を 100 とした。
 3. 検査等級、整粒歩合は表 1 と同じ。

[その他]

研究課題名：水稻新品種「実りつくし」の高品質・安定多収栽培技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成 29 年度 (平成 27~29 年)

研究担当者：岩渕哲也、内川 修、佐藤大和、大野礼成、石塚明子、荒木雅登、奥野竜平